

会 議 録

<会議名称> 令和4年度 第6回岸和田市小中一貫教育推進会議

<開催日>令和5年1月12日(木)

<時 間>15時30分~17時

<場 所>岸和田市教育センター 1階 協働学習研修室

<出席者> ○出席、■欠席

(学校関係者)

和泉校長	北川校長	南教頭	上ノ山教頭	何森教諭	川本教諭
○	○	○	○	○	○

(教育委員会事務局)

片山学校教育部長 (委員長)	松本学校教育課長 (副委員長)	八幡人権教育課長	角銅指導主事
○	○	○	○

(学識経験者)

山口教授
○

<議題等>

1. 教育委員会挨拶
2. 協議
3. 今後の予定

<当日配布資料>

- ・「(仮称) 新たな科」について

1. 教育委員会挨拶

【片山委員長】

こんにちは。学校教育部の片山です。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

本日は、新年早々に、また新学期が始まって間もない中、第6回岸和田市小中一貫教育推進会議にご出席いただきましてありがとうございます。前回の会議から少し間が開きましたので、これまでの協議の流れを簡単に振り返りたいと思います。

これまでの議題としては、主に、「小中一貫教育の計画書について」「先に進めていただく校区の要件について」「新たな科について」の3点でした。

計画書は、岸和田市の教育大綱とのつながりをふまえて計画できるようにし、めざす子ども像や具体の取組みのスケジュールなどを、できる限り分かりやすくまとめられるものを設計しました。まずは、この計画書に沿って、今すでに行っているものを整理して落とし込んでいく作業を、先に進めていただくことにした「桜台中学校区」で、今まさに取り組んでいただいているところです。

また、前回第5回の会議からは、「新たな科」の協議をスタートしました。取組み方については、あらゆる角度から慎重に議論をしていきたいと考えております。

いずれにしても、小中一貫教育を進めるにあたっては、子どもたちの豊かな育ちのために、実態から乖離しないように気を付けながら、「実をとる」ことを大切にする、ということをお前提に協議を進めてきております。今後の協議も、このことを大切にしながら進めてまいりたいと思います。

さて本日も、学識経験者として、関西福祉大学教育学部児童教育学科教職センター教授山口偉一先生にご参加いただいております。本年も、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは委員の皆さま、本日も1時間半という限られた時間です。積極的にご発言いただき、実りのある会議になりますよう、ご協力よろしくお願いいたします。

2. 協議

【片山委員長】

前回の協議をふまえて、今日の議題として提案の内容が示されているので、まず事務局から資料についての説明をお願いしたい。

【角銅委員】

(別紙「当日配布資料」の内容について説明)

【片山委員長】

ご質問等はないか。

【何森委員】

系統立ててということだが、何を系統立てようと考えているのか。学習の形のことか、それとも学習内容のことか、それともどちらも含めてのことなのか。

【角銅委員】

探究的な学びの系統と考えている。

【松本副委員長】

小学校の社会科副読本と重複しないか。

【角銅委員】

知識的な内容面のことを盛り込むことについては、社会科副読本などすでにある教材と重なってしまうので、前回は協議いただいた通り想定していない。このように学習を進めていけば自然と探究的な学びになる、というものを作りたい。例えば、身近な岸和田の地理や歴史についてもっと知りたいとなったときには、どうすればそれを知ることができるのか。地域の人に聞くとか、何か書物を調べるとか。そのような調べる方法そのものを学べる教材を考えている。何について調べるか、その対象はおそらくそれぞれの学校によって違うと思うので、その中身は自由に設定できるようなことをイメージしている。

【和泉委員】

いわゆる資料集のようなものを想定していたが。

【角銅委員】

小学校であれば3年生と4年生が使用する社会科の副読本もあるし、岸和田市立図書館は「岸和田発見シリーズ（全5巻）」といったものを発行しているので、また新たに岸和田市のことを学べる資料集のようなものは、作る必要はないと考えている。すでにあるものを、うまく活用するためにはどうすれば良いのかという視点で、今回の教材を作成したいと考えている。

【南委員】

年末の学力向上実践交流会のときに、総合的な学習の時間の実践について発表があったが、あれがまさにめざす取組みなのかなと思う。

【山口教授】

出していただいた事務局案を整理すると、内容と方法と目的がある。今の説明をふまえると、内容は、岸和田の事例を中心に置く。方法は探究。目的は子どもたちの資質能力を育成する。その資質能力というのは、各中学校区でめざす子ども像に沿った資質能力を系統的に、つまり発達段階に応じて高めていく。その資質能力の内容というのは探究の方法とかぶってくる。そういった整理だと思う。このとき、方法だけを引き出すというのは不

可能。身につける資質能力は、何かを実際に調べて取り組む中で身につくものだと思う。同じ中学校区の小学校と中学校が協働して、どのような教材を取り上げるのかというところに、各中学校の特色が出てくると思う。岸和田でも、臨海部の学校もあれば、山間部の学校もあるので、それぞれの校区の特徴をふまえた題材が一番いいと思う。ただ、作られたものが無味乾燥なものになってしまうと、使われなくなってしまう。そのあたりの兼ね合いを、民間の教材屋さんが出している探究ブックのようなものも参考にしてもいいのではないか。そして、各中学校区の簡単な紹介のようなものを入れたり、各学校ですでに取り組みされている探究の学習の例をのせたりするのもいいだろう。たんなる教本のようにになってしまうとあまりイメージがわからないと思う。中身を充実させないと、子どもも学ぼうという意欲が高まらない。また今のお話の中で、せっかく図書館がそういうものを作っているのなら、各学校で活用してもらおうのが一番いいと思う。

【八幡委員】

大阪府が、SDGs プロジェクトとして 10 時間程度の指導案のようなものを作っている。万博を通じて SDGs を探求的に学ぶプログラムだったと思うが、参考になるのではないか。

【片山委員長】

今お話があったのは、万国博覧会の開催をきっかけに、すべてのいのち輝く未来を考えようといったコンセプトで、いわゆる SDGs の取組みを進めていくための「万博学習読本」のこと。自分たちの身の回りにどのような課題があるかを自分たちで発見して、それについて調べ、整理して、そして将来的にどんなことに取り組んだらいいのか。そのための第一歩として、まずはこんなことをやってみようということを考えるための、一連の学習の流れを示している。全体的な構成などは、おそらく参考になると思う。

【和泉委員】

提案資料の教材の内容に、「①岸和田を知るために（岸和田の地理、歴史を学ぶ方法を学ぶ）」とあるが、地理と歴史だけに限定すると偏ると思うので、自然とか環境面にも広げるほうがいいのではないか。

【角銅委員】

自然という言葉も入れるようにしたい。

【何森委員】

教材のコンセプトに郷土愛とあるが、外国籍の子どもさんが増えてきている中で、郷土愛という言葉が適切なのかどうか。郷土を深く知るという表現であればわかるが、「愛」となると検討が必要ではないか。

また、持続可能な街づくりという言葉も、SDGs を否定するわけではないし、持続可能ではありたいが、限定され狭い表現に感じる。教材を作るうえで、このコンセプトは大きく影響すると思うのでしっかり検討すべきだと思うがいかがか。

【角銅委員】

いただいたご意見をふまえて検討したいと思う。

【片山委員長】

このコンセプトをどう位置づけるかによって、教材づくり大きく関わってくると思うので、やはり非常に大事だと思う。逆にこれが不明瞭であれば、どこに向かうか定まらないということもあると思う。ここは慎重に事務局で検討していただきたい。

【和泉委員】

教材の内容の「②岸和田の未来を考えるために（岸和田のより良い未来を考える方法を知る）」と、「③岸和田の未来を変えるために（自分たちができることを実行に移す方法を知る）」について、「考える」と「変える」の違いがあまりイメージできない。同じような気もするが、どのようなイメージか。

【角銅委員】

未来のことを考えることはできても、それを実行に移すのは難しいと思っている。小学校の3年生であれば小学校の3年生なりの、中学生であれば中学生になりの実行の仕方があるだろう。そもそも実行に移さないと意味がないこともあるから、考えたことを、次は実行に移すにはという視点で考えてほしいと思って、このように設定した。②の内容と③の内容をいっしょにしてしまうと、③の視点がぼやけるような気がするので、別立てがいいかなと思う。これについては、引き続きご意見をいただきながら検討したい。

【和泉委員】

③の実行に移す方法が、小学校の3年生や6年生、中学生と上がるにつれて何か変わるのか。レベルの違いを明確に示すことが難しいかもしれない。

【角銅委員】

今回は、ざっくりとした提案なので、例えば③の実行に移すという内容が、小学校3年生から中学校3年生で共通であるということであれば、共通の章立てをしてもいいのかなと思った。

【片山委員長】

例えば、今の提案は、学年で章立てをして、その中を3つの内容に分けているという構成だが、逆に内容で章立てをして、それぞれの発達段階に応じたアプローチで考えていくという構成でもいいのかもしれない。また事務局で検討を続けていただきたい。

話題は変わるが、先ほどのご意見の中で昨年末の学力向上実践交流会の話が出ていた。実践交流会では総合的な学習の時間の実践について発表があり、子どもたちに主体性を持たせて探究的な学習を進めていくために、さまざまな手立てを考えておられた。参加された先生方のアンケートを拝見すると、「興味深かった」「このような学習を進めたい」「や

やはり子どもがやらされるのではなく自分からやりたい、調べたい、まとめたい、といった気持ちになるような学習を進めていきたい」という感想が多かった。やはり、子どもたちが主体性を持って探究的な学習を進めていく方法を知りたいという、先生方の思いがあるので、今提案のある探究の学びのガイドブックのようなものは、ニーズがあるのだろうと思う。実践交流会のご講演にもあったように、やはり今求められる力を養うには探究的な学習が必要であろう。

【和泉委員】

実施までのスケジュールの中に会議体を設置するとあるが、規模など現状のイメージはどのようなものか。

【角銅委員】

やはり先生方の協力なくしては作ることができないと思うので、現場の先生方にご参加いただく会議体を考えている。しかし、小学校にはすでに社会科副読本を作成するための会議体もあり、多くの先生方にご協力をいただいている。とにかく先生方の大きな負担にならないよう配慮して会議体の規模を考えたい。この点についても、引き続きご意見をいただきながら慎重に考えたい。

【何森委員】

構成の③に、「岸和田の未来を変えるために（自分たちができることを実行に移す方法を知る）」とあるが、「自分たちができる」「自分たちがする」というレベルにとどまってもよいのか。決して大きな負担をかけるようなことをしてほしいというわけではないが、先日も中学生議会が行われて行政にさまざまな提案がなされていた。つまり、自分たちがするという狭い範囲のことだけにとどまらず、社会に要求するということも含まれるようにしたい。

【角銅委員】

ご指摘の通りと思うので、ご意見を反映させるようにしたい。

【八幡委員】

学校で、探究的な学習に取り組んでうまくいったというような好事例はないか。

【南委員】

総合的な学習の時間の研究を進めてきた時期もあったと思うが、最近はあまり充実していないと感じる。探究的な学習を進めようと思ったら、今お話にもあったように、総合的な学習の時間がやりやすいと思うが、なかなか理想的な授業ができていないのが現状。

【和泉委員】

私も同じ感想を持っている。例えば自ら問いを立てることが難しい。どうしても

指導者が問いを与えてスタートする。指導者がおぜん立てをしてしまうので、主体性を持たせることはもちろん、子どもたちがのめりこむような学びを作っていくことは本当に難しいと思う。

【南委員】

そのような学習をしようと思えば、やはり基礎的なことが定着していないとできないし、そもそも、学ぼうという基の部分にも課題はあると思うので、学びたくなるきっかけのようなものはほしいと思う。

【八幡委員】

そもそもの学びに向かう姿勢の部分かなと思う。

【南委員】

本当に学びたいって思わせることが大事。

【片山委員長】

子どもたちに、これをもっと調べたいとか、他の人の意見を聞きたいとかいうような思いを、どのように持たせるか。先ほども話にあったように、総合的な学習の時間がそういった時間になっていない状況があるが、やはり将来的に子どもたちが必要な力は、そこに繋がっている。そういう意欲を持たせることができれば、子どもたちはこちらがいろいろと用意をするまでもなく、自分で学習を進めていくだろう。

【何森委員】

環境づくりの面で話をすると、時間が必要だとか、少人数の学級が必要だという話を昨年度もしていたが、今話に出ている取組みは、やはりしっかりとした教材研究の上に成り立つもの。今はそれがなかなか難しい状況になってきている中で、探究の必要性だけ言われてもなかなか難しいなと思う。個人的には、新たな科がめざすものは、他の教科の中でもしっかりできる部分があるので作る必要はないと思っているが、もし新しい科を進めていくというのであれば、そのための広い意味での環境整備がないと、結局やらないで終わってしまうことも考えられる。やはり今の人足りない状況では難しいということ、しっかりとふまえて考えてほしい。

【北川委員】

ある意味、とても期待できるものだと思う。教材研究のあり方、1時間の授業のめあての立て方。この取組みは、他の教科にも繋がっていくだろう。新たな科について考える会議体の中でしっかりと考えてもらって、子どもたちの学びの基礎となるものを、令和5年から6年の間で、少しでもできれば面白いと思う。

【片山委員長】

学びということ考えると、総合も他の教科もいっしょなので、全ての教科につながっていくというのは十分期待できる。

【山口教授】

まず、先ほど文言の使い方が出てきたが、これについては学習指導要領に準拠するというのが一番大事なことだろう。それから、安易な行動をするのではないということが大前提にしなければならない。政治的な部分に、子どもたちや学校が巻き込まれるようなことになってはいけないと思う。また、できることというのは同心円的に広がっていくものだと思う。小学校1年生の子が他の学校の人たちと話し合っというような大きなことができるわけではない。例えば最初は班の中で意見を交換する。そしてクラスの中でいろいろな立場の違った考え方があることを知っていく。そして今度は、6年生が調べたことを5年生や4年生に発表する。さらには学校の壁を越えて交流したり、時には行政の方々に来てもらって、自分たちの調べたことを行政の方々に聞いてもらったりするなど、いろいろな方法で広がっていくと思う。今の子どもたちは、私たちが思っている以上に発信することに長けていて、好きだと思う。なので、一つのゴールとして、何らかの形で調べたことを発信してプレゼンをするといった表現活動を、豊かにしていくということが大切なことだと思う。もう一つできることに関して言うと、今の社会は民主主義がぐらついていると感じている。いろいろな形でもう一度民主主義の原点に立ち戻り、話し合いによっていろいろなことを決めることの大切さを見直したり、議論の仕方を知ったりすることが大切だと思う。意思決定の方法で焦点化していくと、学年段階に応じた話し合いの形が見えてくるのではないか。それともう一つ、新しい科は総合的な学習の時間の中で進めていくものなので、新たに授業時数を増やすのではなく、すでにある総合的な学習の時間の時数を活用していくということだと思う。このことを、現場の先生方にも十分に説明して理解してもらうことが大切だと思う。最後に、資質能力というと何か漠然としてしまうが、探究をする過程で何らかの技能を身につけさせることが、最終的に資質能力を身につけさせているという整理の仕方で、新しい科を中核に全ての教科で取り組んでいくということ、丁寧に説明していただくことが大切だと思う。

3. 今後の予定

【角銅委員】

次回は、2月14日（火）に行います。

これで第6回の岸和田市小中一貫教育推進会議を終了いたします。本日はどうも、ありがとうございました。

「(仮称)新たな科」について

岸和田市教育委員会 学校教育課

■岸和田市小中一貫教育基本方針(令和2年10月策定)より抜粋

3. 新たな科の設置

さまざまな課題を主体的に解決することが、社会で求められる力の育成につながります。そしてそのような学習を、小学校から中学校まで系統的に積み重ねていくことで、児童生徒に確かな力を育むことができます。本市では、海と山の双方の自然に恵まれた地理的環境と、城下町として栄え、岸和田だんじり祭りといった歴史ある行事を有する豊かな社会文化環境を存分に活用し、地域とつながり地域で学ぶための「新たな科」を設置し、系統的に学習を進めていくための教育課程を編成します。

■設置する理由

- ・「新たな科」に子どもたちが主体的に取り組み、さまざまな課題を解決することで、社会で求められる力を育成する。
- ・子どもたちが生活する「岸和田」を題材にすることで、地域とのつながりを深め、未来の岸和田を担う力を育成する。
- ・小中学校が同じテーマで学習することで、より効果的に児童生徒の力を育成する。

■内容等

- ・小中学校が系統的に取り組めるもの
- ・「学びでつながる」ことができるもの
- ・今求められる力を育成するもの
- ・未来の岸和田を担う人づくりにつながるもの
- ・地元(岸和田)の素材を十分に活用するもの

■第5回推進会議の協議まとめ

教材の内容

知識的なことを学ぶ内容ではなく、学習の進め方・考え方を学んでいけるものがよい。

教材の体裁等

「電子データ」で作成する。

すべて完成してからではなく、できたものから順次提供することも考えられる。

使用が想定される時間や時間数

小学校3年生～中学校3年生までの「総合的な学習の時間」の中で使用することを想定。

「総合的な学習の時間」で活用できる参考教材という位置づけとし、各学校が「総合的な学習の時間」の指導計画に応じて柔軟に活用する。

実施する時期

令和9年度以降を想定。

その他

検証・見直しの時期を明確に設定する。

学習指導要領の改訂に留意する。

■第5回の協議をふまえて(案)

教材の内容

(コンセプト)

郷土愛 持続可能な街づくり

(構成)

第1章(小学校3・4年生)、第2章(小学校5・6年生)、第3章(中学校1～3年生)の3章構成。各章をすべて、①岸和田を知るために(岸和田の地理、歴史を学ぶ方法を知る)、②岸和田の未来を考えるために(岸和田のより良い未来を考える方法を知る)、③岸和田の未来を変えるために(自分たちができることを実行に移す方法を知る)の、3つの内容に分け、系統立てて探究的な学習を進めることができるようにする。

実施までのスケジュール

令和5年度～令和6年度

「新しい科」の詳細を協議する会議体を設置し、教材の作成を進める。

令和7年度～令和8年度

完成した教材から活用する。

令和9年度～

全面実施。